

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

- ①内航RORO航路網等のメリットを活かしてアジアの中継拠点港を目指すことは重要という趣旨の意見。
また、その際には上海港やシンガポール港といったアジアの主要港と同様のハブ港を目指すべきなのか、それらの港湾との比較調査が必要ではないか、それらの港湾に見劣りしない施設機能が必要ではないか、といった趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港は、国内の国際戦略港湾や上海港、シンガポール港、釜山港等のような国際基幹航路のハブ港ではなく、「アジアと日本を結ぶ中継拠点港」(サブハブ)を目指したいと考えております。
- その際、那覇港の特性を踏まえ、那覇港を介して、流通加工等を行う物流施設での貨物の保管や、那覇空港との近接性を活かし、沖縄・日本全国・アジアの荷主に対して、コンテナ船、RORO船、航空機の組合せによる、多様な速度帯の輸送ネットワークの選択肢を提供することを目指したいと考えております。
- このため、長期構想・港湾計画において高規格・高能率コンテナターミナルの整備及び複合ターミナル化や国内外RORO船ターミナル・一般貨物船ターミナルの拡充・再編等を位置付けたいと考えております。

- ②民間企業における経営活動や輸送効率化に係る投資等を支えるため、長期構想案に位置付けられる物流機能強化の早期実現を求める趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港が沖縄県の持続可能な発展を支える物流・人流のボトルネックとならないよう、長期構想・港湾計画において高規格・高能率コンテナターミナルの整備及び複合ターミナル化や国内外RORO船ターミナル・一般貨物船ターミナルの拡充・再編等を位置付けたいと考えております。
- まずは速やかに港湾計画改訂を行い、国とも連携して、物流機能強化等の緊急性のより高い課題から優先的に解決を図り、できる限り早期に効果が発揮されるよう取り組んで参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

③クルーズ需要が復活した際に、沖縄本島3港(那覇港、中城湾港、本部港)が連携した適切なクルーズ受入体制や、クルーズの高付加価値化の重要性に関する意見。
また、那覇港の3バースの役割分担と背後のまちづくりや那覇空港(フライアンドクルーズ)との連携の重要性に関する意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 世界のクルーズ船の動向を踏まえながら、大型クルーズ船に加え、ラグジュアリークラスのクルーズ船や大型クルーザー等を含む多様なクルーズの誘致活動に加え、フライ&クルーズのニーズに応えられるよう、観光資源の発掘等に、今後も関係機関や民間企業等と連携して取り組んで参ります。
- クルーズ岸壁は、中長期的には那覇港で3バース、本部港、中城湾港を含めて沖縄本島で5バースを確保したいと考えており、今後の国内外のクルーズ需要を引き続き注視し、将来に渡って取り込めるように、港湾管理者間で連携を図りながら、適切な規模の施設を確保したいと考えております。
- 那覇港の3バースについては、那覇クルーズターミナル(若狭)は中小型、第二クルーズバースは中大型、浦添ふ頭は小型のクルーズ船を主な受入対象とすることを考えており、港湾利用者との調整や安全面での検討を行って参ります。
- クルーズ客のリピーター増加を目指す中で、波の上うみそら公園や那覇市市街地に近い泊ふ頭(若狭)、大型貨物船を含む那覇港全体の景観や那覇市・浦添市の遠景を臨む新港ふ頭、浦添の自然環境やマリーナ等を含む観光・ビジネス拠点を臨む浦添ふ頭のそれぞれにクルーズターミナルがあることで、毎回違う那覇港の景色を楽しむことができると考えます。
- また、フライアンドクルーズの受入にあたり、空港到着時に手荷物をクルーズ船まで運搬するポーターサービス等、引き続き関係機関や民間企業等との連携を図って参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

④クルーズ客の適切な受入に必要な、CIQ施設や駐車場等の関連施設の整備、ウィズコロナ・アフターコロナにおいてクルーズを安心して楽しめる環境整備、物流と人流の導線分離の重要性に関する意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 第2クルーズバース(新港ふ頭)においては、22万トン級のクルーズ船の着岸時を想定したバス・タクシー駐車場等の整備に着手しております。
- また、官民連携によるクルーズターミナルの整備を行うこととしており、必要な環境整備を速やかに進められるよう、引き続き連携船社との調整を行って参ります。
- 現在、クルーズ船の入港に際しては、那覇港管理組合において船舶ガイドライン((一社)日本外航船協会)及び港湾ガイドライン((公社)日本港湾協会)への適合状況を確認するとともに、県内の港湾・医療・搬送・観光の関係機関で構成する協議会において合意を得た上でクルーズ船受入を行うことになっております。今後、同様の感染症が発生した場合についても、国や関連協会も含めた関係機関と連携し、対応していきたいと考えております。
- 物流と人流の導線分離については、第2クルーズバースと臨港道路港湾1号線(新港ふ頭の出入口)を繋ぐ導線において、那覇市とも連携し、那覇市道の改良工事に取り組んでいるところです。その他の方策も含めハード・ソフト両面の渋滞対策の検討を行っており、引き続き国や道路管理者、港湾利用者等と連携して取り組んで参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑤クルーズ岸壁や賑わい空間が物流機能と隣接することによって双方の機能が中途半端にならないか懸念があり、長期的には物流機能は中城湾港に集中させ、那覇港は人流や賑わい機能を集中させられないかという趣旨の意見。
また、逆に、海外他港の事例も踏まえ、物流等の港湾機能や背後の街が融合して美しい空間を形成することは可能であり、宮古・八重山地域と那覇都市圏の違いも踏まえ、導入施設の工夫等によって物流機能も含めて那覇港全体が美しくなってほしいという趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港においては、近接する那覇空港との連携や、新港ふ頭と浦添ふ頭の国内外海上輸送網及び流通加工等の物流施設の一体的利用を活かし、多様な輸送サービスを沖縄・日本全国・アジアの荷主に提供する、「アジアと日本を結ぶ中継拠点港」(サブハブ)としての物流空間を形成したいと考えております。
- 中城湾港については、バルク貨物やリサイクル貨物等の取扱いや、製造業等の生産機能の立地を中心に促進するという機能分担・有機的連携を考えております。
- 港は、多様な機能が混在する中で物流・人流等の諸活動が活発に行われる場所であり、貨物船、貨客船(フェリー)、旅客船等の多様な機能により活気溢れる港の姿も魅力的な景観、観光資源の一つになるのではないかと考えております。
- 那覇港では、クルーズ船や毎日同じ時刻に入出港する定期船、物流活動の景観等を活かし、琉球王国の大交易時代の舞台となった那覇港の歴史を感じられる、港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくりを目指したいと考えております。
- ご意見を踏まえ、物流空間と交流・賑わい空間が調和・融合した景観を形成している海外含む他港の事例を参考にするとともに、那覇市・浦添市におけるまちづくり等とも連携し、両空間の調和・融合のあり方について詳細な検討を進めて参ります。
- また、交流・賑わい空間を訪れる観光客等に対して、沖縄・日本全国・アジアから集荷した特産品等を紹介し販売するような、物流・交流・商流の相乗効果を発揮できるよう関係機関と連携し取り組んでいきたいと考えております。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑥那覇港及び背後のまちについて、生活者や観光客の賑わいスポットとしての魅力向上を望む趣旨の意見。
また、そのために水際線の周遊性向上や景観形成等を求める趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港において、多様なクルーズ誘致や県民・観光客の交流・賑わいを生む面的開発に取り組み、那覇市・浦添市におけるまちづくり等とも連携し、観光の高付加価値化や県民の港へのパブリックアクセス向上を図ることが重要と考えております。
- 中城湾港については、バルク貨物やリサイクル貨物等の取扱いや、製造業等の生産機能の立地を中心に促進するという機能分担・有機的連携を考えております。
- その際、クルーズ船や毎日同じ時刻に入出港する定期船、物流活動の景観等を活かし、琉球王国の大交易時代の舞台となった那覇港の歴史を感じられる、港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくりを目指したいと考えており、今後「那覇港みなとまちづくりマスタープラン」で、より具体の対応を検討して参ります。
- また、地域住民やオプションツアーに参加しない自由観光のクルーズ客が港内から市内にかけて散策し楽しめるウォーターフロント空間の面的な展開に向けて、指定管理者や、那覇市、浦添市、民間企業の取組等との連携強化(周辺地域の公園・街路等と連携した良好な景観創出、文化・音楽・スポーツ等の多様なイベントとの連携等)に取り組みたいと考えております。

⑦周辺離島航路や鹿児島フェリー航路を活かした広域観光の振興が重要であり、その拠点としての那覇港の機能強化が必要という趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港から奄美地域や沖縄島北部、周辺離島等への広域観光の振興は、観光客の滞在日数増加等の観点から重要なテーマであると認識しております。
- 世界自然遺産登録された奄美地域・沖縄島北部との人流機能を活かすとともに、アイランドホッピング等に係る旅客船の受入環境の確保も考慮しつつ、沖縄全体の観光振興に資する取組も行っていきたいと考えております。
- また、那覇市・浦添市におけるまちづくり等とも連携し、港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくりを目指したいと考えております。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑧那覇港湾施設(いわゆる那覇軍港)や牧港補給地区の跡地開発との連携、那覇空港を含めた一帯のエリアとしての活用の重要性に関する意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇空港・那覇港から牧港補給地区に至る一帯は、沖縄の社会経済活動の持続可能な発展のために非常に重要なエリアであると認識しております。
- 那覇港管理組合としては、関係機関等と連携・調整し、那覇空港や那覇港湾施設(いわゆる那覇軍港)、牧港補給地区の跡地利用との連携も考慮して、那覇港長期構想・港湾計画を策定したいと考えております。
- 那覇港湾施設跡地については、港湾施設(係留施設等)としての活用も考えられることから、国、県及び那覇市で検討される利用計画の動向を踏まえ、その位置付けの可能性について検討していきたいと考えています。
- 牧港補給地区跡地については、国、県及び浦添市で検討される利用計画の動向を踏まえ、港湾管理者として連携していきたいと考えています。

⑨港湾機能の強化にあわせて、離島航路に係る船舶や漁船等の入出港も考慮した、港内の船舶交通の安全確保を求める意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 港湾施設の計画・整備等に当たっては、離島航路の船舶や漁船等も含めた船舶航行の安全性を確保できるよう、関係機関や船社等と調整・検討して参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑩荷捌き地や倉庫用地等の物流用地の不足や施設の老朽化・陳腐化等によって、港湾活動における安全性の低下や非効率な輸送、那覇港での事業展開への支障が生じており、改善を求める趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港の施設は、本土復帰の1972年前後に完成した施設も多く、老朽化が進むとともに、近年の船舶大型化や貨物量の増加に対応できておらず、係留・荷役の安全性の低下や非効率な作業等の課題が慢性化していること、また、荷捌用地不足に伴い、点在したスペースでの暫定的な野積場の確保が慢性化し、倉庫等の保管施設や陸上輸送のための用地の確保が困難な状況であることを、港湾管理者としても認識しております。
- 引き続き、港湾施設・海岸保全施設等の戦略的な維持管理とともに、ふ頭再編による老朽化施設の廃止・利用転換等の抜本的なストックマネジメントや、民間活力の導入も含む持続可能な管理運営体制の確保が必要となります。
- このため、長期構想・港湾計画において、国内外RORO船ターミナル・一般貨物船ターミナルの拡充・再編とともに、荷捌用地や保管施設用地、海上・陸上輸送の効率的な連結に必要な用地の拡充等を位置付けたいと考えております。
- まずは速やかに港湾計画改訂を行い、国とも連携して、物流機能強化等の緊急性のより高い課題から優先的に解決を図り、できる限り早期に効果が発揮されるよう取り組んで参ります。

⑪沖縄本島だけでなく周辺離島も含めた災害時の緊急物資輸送等の拠点としての機能の重要性や、領海保全のための巡視船の係留環境の確保等、安全・安心の確保に関する意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港背後圏への緊急物資輸送等を行う耐震強化岸壁については、沖縄本島だけでなく周辺離島の支援も考慮して、港湾計画や実際の運用を検討して参ります。
- なお、港湾計画改訂にあたっては、RORO船用岸壁は、経済活動を支えるために必要な物流機能の維持の観点からも、耐震強化岸壁とすることを検討しております。
- 巡視船の係留環境については、新港ふ頭北西端部での確保を考えており、更なる係留スペースの確保等について引き続き検討・調整を行って参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑫浦添の北側海域は、サンゴや海藻、野生動物が残っている非常に貴重な自然海岸であり、そのようなものが都会のすぐ近く、物流活動を行っている足元で生きているという、パワーを与えているところを楽しんでもらえるような空間にしてほしいという趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 浦添ふ頭地区については、ご意見頂いた問題意識も踏まえつつ、自然環境・景観に配慮した新たな埋立地の規模や形状を検討し、浦添の自然環境を活かした交流・賑わい空間を創出したいと考えております。
- その際、護岸等の緩傾斜化・親水化、緑地の整備等による良好な環境の創出、みなとへのパブリックアクセスの向上に取り組みたいと考えております。
- また、同地区の北側水域には、貴重な生態系を保全する空間として「自然的環境を保全する区域」を設定することとし、同区域を海洋教育等に資する区域としたいと考えております。
- 自然環境への影響については、現在、港湾計画改訂に向け、那覇港全体の環境現況調査を実施中であり、環境への影響の分析を行い、自然環境に配慮した港湾計画を策定する予定です。
- また、事業化に当たっては、環境影響評価法等に則った手続きを行うとともに、自然環境に配慮した護岸等の構造・工法の導入を検討して参ります。

⑬国全体のテーマである、「カーボンニュートラルポート」の形成や、港湾の生産性を飛躍的に向上させるための「サイバーポート」の構築に関する施策推進が必要という趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港においてもカーボンニュートラルポートの形成に向けて取り組んで参ります。
- 具体的な取組は、今後策定予定のカーボンニュートラルポート形成計画において検討・調整するものと認識していますが、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化に取り組むとともに、関係機関や民間企業等の意見を踏まえつつ、水素・アンモニア等新たなエネルギーに係る輸送環境の検討も含め連携して取り組んで参ります。
- 「サイバーポート」の活用やデジタル化の推進については、港湾利用者等の民間企業や関係機関等と意見交換を重ね、今後の技術動向も踏まえながら導入を検討して参ります。

○ 第5回那覇港長期構想検討委員会における主な意見の概要 及び那覇港管理組合の考えについて

⑭海外事例を踏まえ、観光客や地域住民が集まって、港・まちの発展を討論できる施設があるとよいという趣旨の意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 那覇港と沖縄の持続可能な発展のためには、みなとへのパブリックアクセスの向上や港湾の積極的な広報、それらを通じた港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保が非常に重要であると認識しております。
- 賑わい空間やクルーズ寄港時以外におけるクルーズターミナル等を活用した、那覇港のみなとまちづくりや将来ビジョン等に係る学習や議論の場の創出等に取り組んでいきたいと考えております。

⑮沖縄経済の発展、SDGsに対する那覇港の関わりの明確化やモニタリングに関する意見。

⇒(那覇港管理組合の考え)

- 沖縄県には、成長著しい東アジア及び東南アジアと日本本土との中心に位置する地理的優位性に加え、独自の歴史・風土の中で育まれた、人々を惹きつける魅力(ソフトパワー)があり、こうした地域特性を活かすことで、ヒト・モノ・カネ・情報が集積する「万国津梁」となることが期待されます。
- その中で那覇港は、流通加工等を行う物流センターや近接する那覇空港との連携、沖縄のリゾート地としての魅力等を活かし、アジア・沖縄・日本全国を繋ぎ、沖縄県のみならず日本全国及びアジアの成長に貢献する拠点港として発展できるポテンシャルがあると考えています。

例えば、

○国内外航路網の充実や物流効率化等による県内企業の国際競争力向上

○クルーズ等の交流機能と物流・商流との連携による県産品の輸出促進、流通加工等の高付加価値の臨空・臨港型産業の集積

○観光の高付加価値化に資する多様なクルーズ誘致や面的開発

等に取り組むことで、県産業の振興、生産性向上に貢献できるものと考えます。

- また、長期構想委員会資料において、基本戦略とSDGsの目標との関連付けを行っており、今後、県の取組状況と整合を図りつつSDGsの取組状況をモニタリングすることも考えております。